高田先生の思い出

西南学院大学教授　伊　藤　龍　峰（博85期）

高田先生が亡くなられて、早いもので10年の歳月が経ってしまいました。この間、私はといえば、高田先生の後を受けて西南学院大学に赴任し、教育と研究に従事させていただいているにもかかわらず、先生のご霊前にご報告できる十分な業績もあげることができず、申し訳なさで一杯です。

私が高田先生に初めてお会いしたのは、大学院博士前期課程に入学したときでした。他大学の学生だった私は、会計監査論を勉強したくて高田先生の大学院ゼミに進学したのですが、その当時は、高田先生の大学院のゼミ生は、博士後期課程３年生に林民徳さんという台湾からの留学生がおられましたが、あとは私一人しかおらず、何となく心細い気持ちで先生のご指導を受けたことを覚えています。

しかも、高田先生の指導スタイルは、基本的には大学院生個人がテーマを選定し、そのテーマに沿って研究した成果を先生の前で報告するというものでしたが、暫らくはそのようなスタイルに慣れずに戸惑ったものでした。まだ、大学院生になったばかりの私には、テーマそのものを見出すことができるほど十分な監査論に関する下地がなかったからです。当然、高田先生にはそのことが解かっておられたのだと思いますが、叱責もなさらずに、私の稚拙な報告にじっと耳を傾けていただきました。高田先生は、学問に対する大学院生の自主性を重視されていたのだと思いますが、そのようなやり方で、私に早く研究の厳しさと楽しさとを身をもって経験させようとされたのだと思います。

高田先生には、研究会や学会によく連れて行っていただきました。私が大学院を終了し、神戸大学で毎月開催されている関西監査研究会に参加させていただくようになってからはほとんど毎回、そして、年数回開催されている監査学会や会計学会を併せると、ご一緒させていただいたのは30～40回にもなります。旅行の色んな思い出がありますが、たとえば、三重大学で監査学会があったとき（'88年11月12日）、折角、三重まで来たのだからという訳で、まず伊勢神宮に参拝し、その後、茶店で名物の伊勢うどんと赤福を食べていたら時間がかかってしまい、三重大学に着いたときには、すでに学会は終了間際で、１時間も経たないうちに帰ってきたことがあります。帰りの新幹線の中で先生が、昭和天皇の病気回復祈願のご記帳もでき、美味しいと噂に聞いていた伊勢うどんも食べられたし、学会で研究報告を聞いたと同じくらい充実した一日だった、といわれたことを今でも覚えています。私は、まだ大学教員になって間もない頃でしたので、このような考えもあるのだと妙に納得したものでした。また、愛知大学で開催された、やはり監査学会のときでしたが（'90年６月23・24日）、名古屋で泊まることになっていたので、夕食を食べに繁華街に行き、ホテルまでぶらぶら歩いて帰っていたとき、高田先生が、名古屋に来てパチンコをしなかったらパチンコの神様に申し訳が立たないな、と言われ、パチンコ店に入ったことがあります。そのパチンコ店は、スロットだけの店で正確にはパチンコではなかったのです。二人とも初めてのスロットだったのですが、いわゆるビギナーズ・ラックで、ほんの30分ほどでかなり勝ち、それを元手にしてまた飲みに行き、翌日の学会は二日酔いでほとんど報告が聞けなかったような状態でした。

私が高田先生からご指導を受けた期間は13年ほどでしたので、期間としては決して長いとは言えません。しかし、私の中に高田先生の教えが根付いていると自分では思っています。高田先生だったらどう考えられるだろう、どうされるだろう、これは先生から叱られるな、と何かにつけ考える癖がついています。この癖は良い癖と思っていますので、これからもずっと持っていようと思います。この癖がある限り、いつまでも高田先生からのご指導を受け続けていると考えるからです。